

## 式 辞

新入生の皆さん、県立広島大学への入学、おめでとうございます。また、入学を果たされた皆さんの努力に敬意を表しますとともに、その志を支えて来られたご家族をはじめとした関係の皆様方に対し、心からお喜び申し上げます。新入生の皆さんが本学の一員となることを心から歓迎いたします。

残念ながら、今回皆さんのために用意していました入学式は新型コロナウイルスの感染の終息時期が見通せないことから、皆さんの健康を最優先し、通常の形ではなく、このような形での挙行となりました。皆さんすべてを会場にお招きできなかったことを大変残念に思います。誠に申し訳ありません。

今年度は、本学の3つの学部、550名の学部学生、また、助産学専攻科に10名の専攻科生、大学院研究科に83名の大学院生、総勢643名の新入生を迎えました。現在、県立広島大学は、3つの学部と2つの研究科を擁し、2,374名の学部学生と助産学専攻科10名、202名の大学院生、併せて2,586名の学生が在籍しています。この皆さんが入学されました県立広島大学は、2005年4月に、それまで、広島市、三原市、そして庄原市にありました県立3大学を統合して、作られました。旧の大学はそのまま3キャンパスとして使用しています。1つは広島市内の南区にあります広島キャンパスです。このキャンパスは、1920年広島県立広島高等女学校家事補習専攻科として設置され、1929年の広島女子専門学校、1950年の広島女子短期大学、1965年の広島女子大学を経て、県立広島大学となりました。昨年で創立100年の歴史を持っています。このキャンパスには地域創生学部の1学部があります。地域文化、健康科学、経営学や情報科学まで広い範囲の学問を学ぶことができます。キャンパスでは英国や東南アジアからの留学生も学んでいます。広島県東部の三原市には、三原キャンパスがあり、ここには保健福祉学部があります。このキャンパスの前身は、1995年に設立された広島県立保健福祉短期大学です。2000年には4年制に移行し、広島県立保健福祉大学となり、2005年に県立広島大学に統合されました。保健医療に関連した5つのコースがあります。あと1つは広島県北部の庄原市に生物資源科学部があります。このキャンパスは、1989年に、当時東広島市にありました広島農業短期大学を改組して、広島県立大学として庄原市に開校しました。当時は経営学部と生物資源学部の2学部がありました。同様に2005年に県立広島大学に統合されました。現在は、1学部2学科で、生物資源科学部生命環境学科では生命科学や環境科学の最先端の学問を学ぶことができます。そして、農業をめざす若者には、スマート農業に関連した学問や実学を学ぶことができる地域資源開発学科があります。庄原キャンパスでも、多くの東南アジアからの留学生が学んでいます。

ところで、本学は地域に貢献する「知」の創造・応用・蓄積を図り、「地域に根ざした、県民から信頼される大学」を目指して、教育・研究・地域貢献活動を

積極的に推進し、その存在価値を示すことにあります。実際、教育では文部科学省の「大学教育再生加速プログラム」のテーマ1（アクティブ・ラーニング）に応募し、採択され、平成26年から平成31年の6年間この事業を推進してきました。昨年、終了後の文部科学省の評価では、最高の「S」評価をいただきました。本学は、幅広い教養と高度な専門性を備えた実践力のあるアクティブ・ラーナーを育成することを目指し、今後もこの事業を継続していきます。また、保健福祉学部の国家試験合格率に関していえば、令和元年度は保健師、作業療法士、言語聴覚士、助産師は100%、看護師、理学療法士、精神保健福祉士は90～98%と全国有数の合格率を誇っています。また、健康科学の管理栄養士は令和元年度は94.4%の合格率でした。研究面では、文部科学省が人文学・社会科学から自然科学までのすべての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる独創的・先駆的な「学術研究」を行う優れた研究者に必要な資金を助成する科学研究費補助事業がありますが、本学の採択件数は令和2年度は105件で、中国・四国・九州の公立大学27校の中で、2007年から昨年まで14年連続1位で、本学の研究力の高さを示しています。地域貢献では、日本政策金融公庫が毎年論集を出していますが、その中で、中小企業と積極的に協力する大学及び連携プロジェクトという論文があります。本学は2014年から2017年度の統計で、民間からの受け入れ件数に占める中小企業の割合では、全国3位にランクづけられていて、いかに本学が県内企業のサポートをしているかが明らかになっています。このように、本学は教育・研究・地域貢献活動を積極的に推進しています。これからも、さらに推進していきたいと思っています。

ところで、池田香代子さんの「世界がもし100人の村だったら」という本があります。そのなかでは、大学教育を受けられるのは100人のうち1人だけでした。日本の大学への進学率は、今では50%を超えていますが、世界的に見れば今でもほんの一握りの人しか行かれません。大学に行く、それはある種の特権です。特権であるということは、皆さんには地域や日本のために、或いは世界のために頑張っていたいただきたいのです。大学で高等教育を受ける意味はどこにあるのでしょうか。大学教育ができるのは、特定の業種に必要なスキルを教えることではなく、どんな現場に立っても物事を冷静に判断し、問いを見出し、自分なりの答えを導けるような人を育てることだと思います。これからの変化の激しい社会を生き抜くため、皆さんには本学での学びを通して、専門知識はもちろんのこと、どのような社会になっても求められるであろう、コミュニケーション能力、課題解決力、判断力を身に付けることができるよう努力してください。皆さんが次世代社会の立派な担い手に成長されることを祈り、私からの歓迎のことばとさせていただきます。

令和3年4月5日  
県立広島大学長 森永 力